



朝夕は寒く感じますが、昼間、太陽が出ているとぽかぽかと暖かい陽気になります。天気がよいとほっとします。先日は午前中ぽかぽか陽気だったからでしょうか、子どもたちが園庭に出て、楽しく遊んでいました。子どもたちは明日の発表会に向けての練習に連日取り組んでいます。クラスや2階ホール、大坪記念ホールと、場所を変えながら、練習をがんばっています。職員も大道具や小道具、衣装の準備に余念がありません。そんな中での園庭遊びでした。生活にメリハリを付けることは大人だけでなく、子どもにとっても必要ですね。伸び伸びと楽しそうでした。



## ○ いよいよ明日は発表会です。

今週に入り、発表会の練習もピークを迎えました。9日(月)と11日(水)は、みんなで大坪記念ホールに行って、リハーサルを行いました。保護者の会の1役の皆さんにも道具運びやステージでの設営などご協力をいただきました。ありがとうございました。

子どもたちはクラスによっては本番で着る衣装を着てステージに上がり、音楽に合わせて動いたり、合奏をしたりしました。職員も調光や放送の音量や音楽をかけるタイミングなどを確認しました。明日はいよいよ本番です。子どもたちには全員元気で登園し、練習の成果を精一杯出し切ってほしいと願っています。保護者の皆さんもお楽しみに！



## ○ 年長の子どもたちの様子がケーブルテレビで放映されました。

本紙No.26でお知らせしましたが、年長の子どもたちの様子が先週から宮崎ケーブルテレビ12チャンネル「みんなあつまれ」で放映されています。私も録画してみましたが、子どもたちは一人一人しっかりと自分のことを話すことができました。日々、子どもたちが成長していることを感じるできました。今週の土日にも再放送がありますので、見てみられてはいかがでしょうか。

## ○ 改正児童虐待防止法施行に伴う指針素案が出されました。

子どもに対する親の体罰を禁じた改正児童虐待防止法、改正児童福祉法が来年4月から施行されます。最近のしつけと称して保護者による子どもへの暴力や虐待によって発生した死亡事件を機に親らによる子どもへの体罰禁止が明文化されました。

今回、指針素案が出され、その中で体罰の定義や体罰の事例が出されました。体罰の定義は「子どもの身体に苦痛や不快感を与える行為(罰)」とされています。体罰の例として次の5つが挙げられています。

- 1 言うことをきかないので、頬をたたく。
- 2 いたずらしたので、長時間正座させる。
- 3 友達を殴りけがをさせたので、同じように殴る。
- 4 他人の物を盗んだので、お尻をたたく。
- 5 宿題をしなかったので、夕飯を与えない。



本紙前号でも書きましたが、核家族が当たり前のようになった現代において、相談したり模範となったりする人が身近にいないくて、親がどう子どもを育てたらいいのか、どう接したらいいのか分からない状況が多くなっているのかもしれませんが。結果として「しつけ」と「体罰」との区別がつかず、悲しい事件につながるのかもしれませんが。現代は、ITの進化によりスマホで簡単に多くの情報を収集することはできますが、その情報が即自分の子育てに使えるとは限りません。デジタル時代にはなりましたが、子育てはアナログです。一律に何もかも我が子に当てはまることはありません。自分の子どもでも2人いれば、一人一人の性格や個性が違うので対応の仕方は違ってきます。上の子どもでうまくいったからと言って、下の子どもでも同じようにうまくいくとは限りません。

子育てで大切なことは、親が子どもを愛する、大切に育む気持ちだと思います。それと、難しいことですが、感情に押し流されないこと。よく「おこる」と「しかる」は違うと言われます。「おこる」は「怒る」と書きますが、これは「自身の感情を抑えられず表に出すこと、感情を外に向かって爆発させること」です。「しかる」は「叱る」と書きますが、これは「相手によりよい方法を教示すること、相手のことを思い指導すること」です。同じような状況や場面で使われる言葉ですが、感情的になるか、ならないかの違いがあります。子どもに注意してもだだをこねたり、泣いたりして、なかなか親の言うことを聞かない場面がよくあります。そんな時、イラッとなったりカッとなったりして、つい激しい言葉が出たり、手が出たりすることがありますが、そこをどう我慢するか。高ぶった感情をどうコントロールするか。難しいことですが、これからはこの難題を乗り越えていく努力が親に求められることとなります。

試してみられてはどうか、と私なりに考えていることがいくつかありますので紹介します。

- 1 相手は生まれてまだ数年しか経っていない幼い子どもであり、まだまだ未熟で知らないこと、分からないことが多い、と考える接する。
- 2 自分が幼い頃はどうかだったかな、と自分を振り返ってみる。今の自分はこんな大人になっているのだから、我が子も成長してくれる。今のこの瞬間だけにとらわれずに、じっくり子どもと接していこう、と考える。
- 3 日頃から家庭での関わり方を考えて、子どもとの会話やスキンシップを心掛け、親子の絆(信頼関係)を強くしていく。そして、子どものよいところを見つけて、積極的にほめて伸ばしていく。

子どもはほめられることでうれしい「快」の感情が増え、自己肯定感が高まり、自分に自信を持つようになります。自分に自信をもつことができるようになると、物事に対して積極的に関わるようになり、より多くほめてもらいたいという欲求が高まります。そうすると、不適切な行動をして叱られ「不快」の感情が出てきた時、これを避けようとして不適切な行動をとらないよう気を付けるようになります。

叱る時に大切なことは、子どもたちが不適切な行動に気づき、自ら気を付けようという意識をもたせることです。「叱られたくないから親の目の前ではしない」ではなくて「このようなことをしてはいけないのだな」と気づかせ、考え方や行動の仕方を教えることだと考えます。

ですから、叱った後のフォローも大切です。叱りっぱなしではなく、子どもの感情が落ちついたり、行動がよい方向に変わったりしたら、しっかりほめたり、認めてあげたりすることが必要です。そうすることで、子どもはより「快」を求めて行動するようになると思います。

言うのは簡単ですが、行うのは難しいです。しかし、子どもの成長のため、親として少しずつでも努力して行くことが大切なのではないのでしょうか。

## ○ 飲酒運転根絶強化月間

12月も半ばとなり、職場や地域では忘年会が開催されていることでしょう。今月は「飲酒運転根絶強化月間」です。「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」最近は二日酔いで朝、酒気帯び運転で検挙される事案が増えているようです。自分や家族の幸せのため、絶対に飲酒運転はしないようにしましょう。